ワークショップ実施概要

1．	事業名	令和６年度 浜松市モビリティサービス推進コンソーシアム ワークショップ
2．	テーマ	「ドローン航路を活用したサービス創出に向けて」
3．	日時	2024年11月21日(木)13:30-17:00
4．	実施形式	対面（浜松市　地域情報センター）
5．	参加者数	29人
6．	参加費	無料
7．	告知方法	・8月6日開催のドローン部会での告知 ・浜松市モビリティサービス推進コンソーシアムSlack内での告知 ・イベント情報サイト「Peatix」での告知

当日プログラム

時間	内容	
13:30～13:34	挨拶	浜松市デジタル・スマートシティ推進部長　水谷供子氏
13:34～13:35	ガイダンス	・目的の共有 ・ワークショップの流れ等説明
13:35～13:45	インプット1	**「空のデジタルインフラとして整備する、浜松市天竜川水系のドローン航路」** 株式会社トラジェクトリー代表取締役社長　小関　賢次氏
13:45～14:50	第１部WS	・アイスブレイク ・ドローン航路周辺の情報案内 ・サービスユーザーの検討
14:50～15:00	休憩	
15:00～15:45	第２部WS	・サービスのテーマ決め ・発表するサービスを具体化 ・発表資料の作成
15:45～16:20	発表 講評	各班発表 講評：浜松市フェロー　東 博暢 氏
16:20～16:30	総評	共同幹事 （遠州鉄道株式会社、スズキ株式会社、浜松市）
16:30～17:00	ネットワーキング	

ワークショップ資料

アイスブレイクから始まり、フレームワークを用いたワークショップを実施

アイスブレイク

積木式自己紹介

【ルール】

①時計まわりに自己紹介をしていきます

②1人目の自己紹介

→A「〇〇〇という仕事をしている、(A)です。」

→付箋に〇〇〇を書き出して、ワークシートのステップ1に貼り付け

③2人目の自己紹介

→B「〇〇〇のAさんの隣の、△△△という仕事をしている(B)です。」

→付箋に△△△を書き出して、ワークシートのステップ1に貼り付け

④3人目以降の自己紹介

→C「〇〇〇のAさんの隣の、△△△のBさんの隣の、□□□の、、、」つづく

ワークショップ　第１部

アイスブレイク　みなさんの技術、知識、担当を知りましょう！

STEP 1　ドローン航路周辺の特徴を知りましょう！

STEP 2　サービスユーザーを決めましょう！
・理想の姿を想像しながら

ワークショップ　第２部

STEP 2 ：サービスユーザー

個人（toC）、事業者（toB）幅広に

STEP 3
サービスユーザーを１つ選ぶ
サービスユーザーの現状
どんな暮らし・ビジネスをしている？

STEP 4
サービスユーザーの理想の姿
（どんな姿がハッピー！？）
HAPPY
理想の姿と現状を
埋めるサービス
サービスユーザー
に提供するサービス
サービスユーザーの現状
どんな暮らし・ビジネスをしている？

ワークショップ　第２部

STEP 3　サービスユーザーの現状から、班のテーマを決めましょう！

STEP 4　創造したサービスにより、どうなりますか？

（深堀　プロモーションやマネタイズ方法について
※時間があれば）

インプット概要

■インプット

インプットとして、株式会社トラジェクトリーの小関氏に、現在実施中の天竜川上空でのドローン航路の開発に関する基本的内容や現時点の進捗状況をお話しいただいた。

【インプット概要】

〇背景と目的

ドローン航路の検討は、経済産業省の資料を基に全国規模で進行中。物流クライシスや災害対応を含むデジタルライフライン構築が目的。過疎化によるハードインフラ維持の困難を背景に、10年計画で全国普及を目指す。今後の方向性として航路を安全かつ簡便に利用できるサービスへつなげることが重要である。

〇浜松市ドローン航路

浜松市の取り組み物流と河川点検を兼ねたマルチパーパスなドローン活用を展開。天竜川の航路は、二俣地区から北上し、佐久間・水窪地区を基本航路とし、春野・阿多古地区へ支線を整備予定。

〇今後整備されるドローン航路

航空法やレベル3.5の法規制内での航路・離発着場の予約運用整備、および申請・確認工数の削減をするため、運営者による航路管理や運用の新たな役割の構築される。

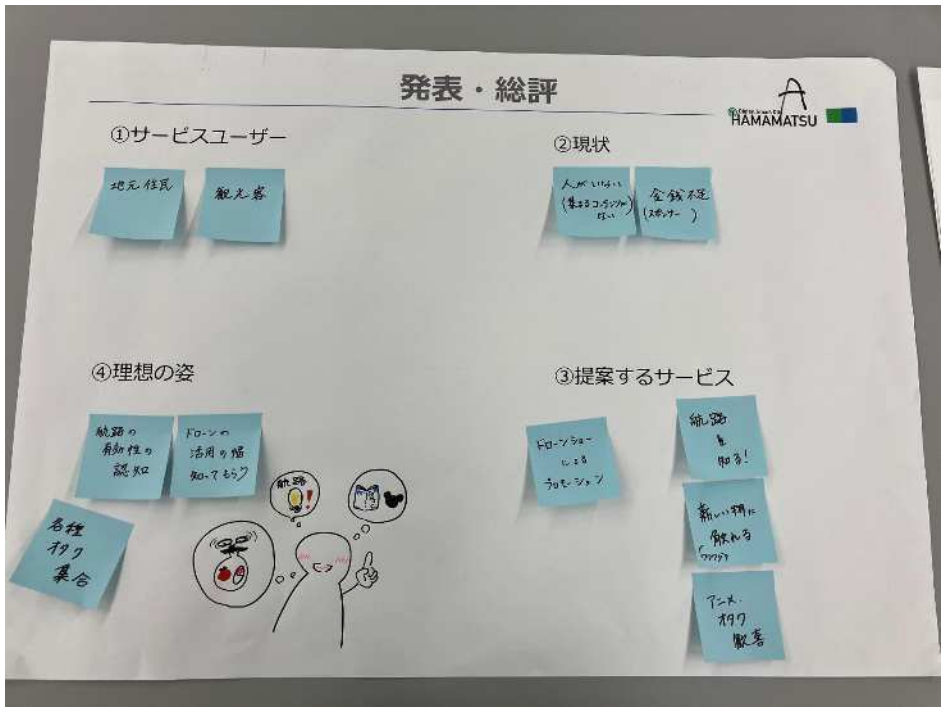
ワークショップの状況

■ワークショップ状況、最終成果発表

ワークショップ結果（グループA）

■メンバー　（順不同）

会社名
IIDA
遠州鉄道株式会社
ソフトバンク株式会社
株式会社スクラムクリエイション
産業振興課
SBSプロモーション



■議論の主な内容

様々なアイデアを発散して思考することができ、それを包括するサービスとしてまとめる議論内容となった。

■発表内容

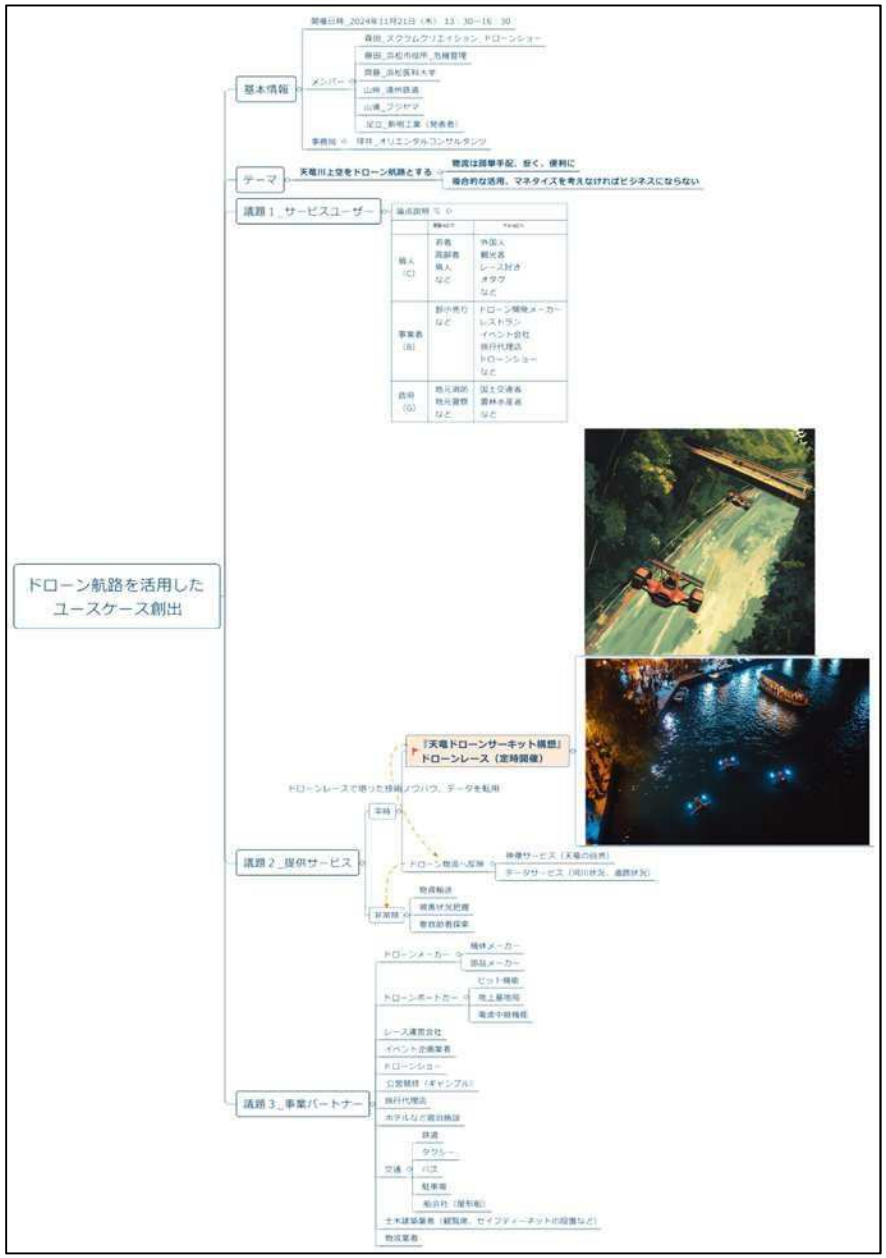
「ドローンパーク」を設立し、地元住民や観光客にドローンの魅力を伝える場を提案した。ドローンショーや地元野菜のピックアップ体験など、ドローンの実用性を体感できるコンテンツを提供し、花火とドローンを組み合わせたショーやQRコードでの情報提供により、視覚的な驚きと実生活での利便性を周知する。これにより、ドローンの可能性を消費や発見につなげ、地域活性化と新しい観光体験を創出する。

■発表に対する講評

ドローンは見せて楽しませることも重要で、面白おかしい使い方が魅力として。ドローンショーでQRコードができるということであれば、PayPayを活用した募金システムを組み込むことなど、来場者が気軽に参加できる仕組みを作ることができる。

楽しさと実用性を兼ね備えた体験を通じて、ドローンの可能性を広く伝える取り組みにできる。

ワークショップ結果（グループB）



■メンバー　（順不同）

会社名
新明工業株式会社
浜松医科大学
遠州鉄道株式会社
株式会社フジヤマ
危機管理課
株式会社スクラムクリエイション

■議論の主な内容

エンターテイメント要素を用いてドローン産業を発展させることについて議論が行われた。

フレームワークを飛び出して発表資料が取りまとめられた。

■発表内容

「天竜川ドローンサーキット構想」として、平時はドローンサーキットを実施。非常時にはサーキットで飛行させているドローンを物流に活用するサービスを提案した。

平時は誰もが楽しめる内容のレースを実施し、非常時には行政の力添えにもなるようなサービスを提案した。

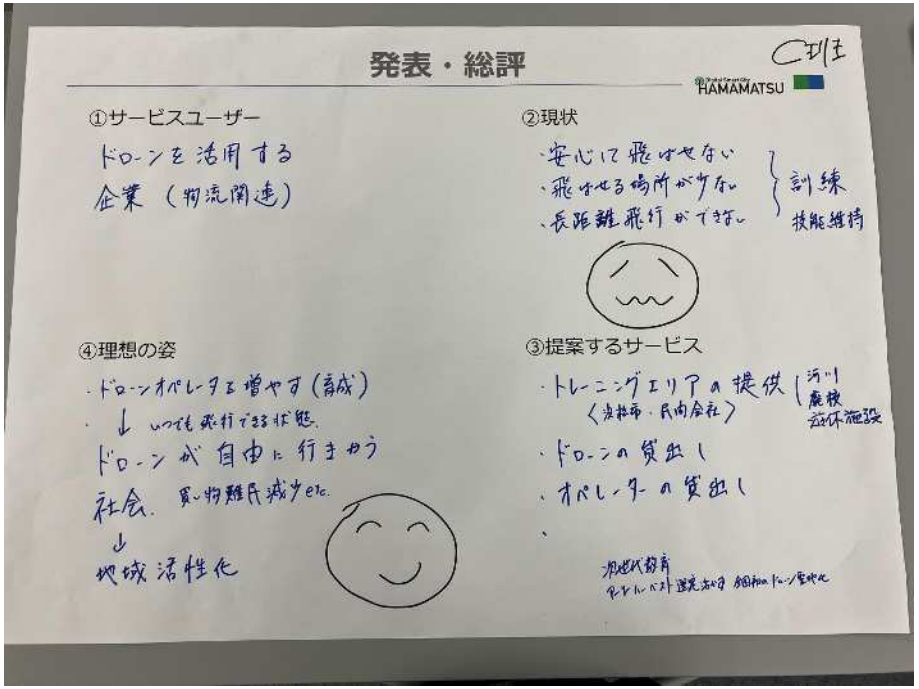
■発表に対する講評

エンターテインメントを通じて一般市民や観光客を巻き込むことは、とっかかりとして非常に効果的である。ショービジネスとしての魅力を発揮し、エンターテインメント性を高めるとともに、技術開発の実証の場としても活用できる。

ワークショップ結果（グループC）

■メンバー　（順不同）

会社名
中部精機株式会社
三菱電機株式会社　神戸製作所
遠州鉄道株式会社
天竜区役所
産業振興課
中部電力パワーグリッド



■議論の主な内容

過疎地域であることから、遊休施設があることに着目し、教育分野にも活用できるのではないかという議論が行われた。

■発表内容

ドローン物流関連企業向けに、技能維持と技術向上を支援するサービスを提案した。河川上空や遊休施設を活用したトレーニング場所を提供し、ドローンや訓練された操縦オペレーターの貸し出しを行う。これにより操縦技術の向上と人材育成を進め、ドローンが自由に飛び交う社会を実現していき、地域活性化と物流の効率化を目指すことを提案した。

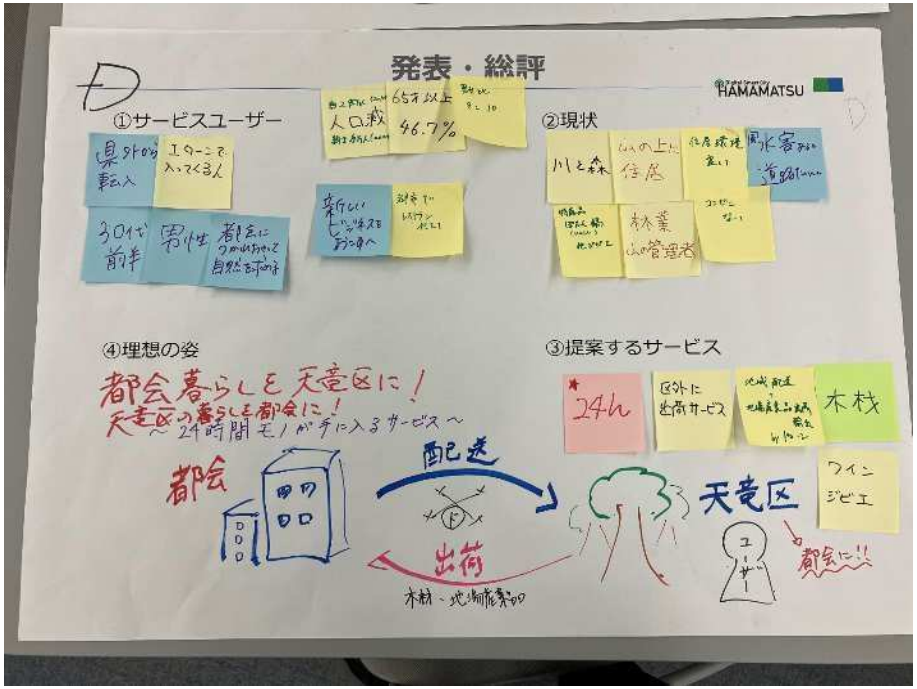
■発表に対する講評

ドローンの操縦場所は現状でも存在するものの、オペレーターの育成や人材派遣まで包括的に行う仕組みは限られている。そのため、ドローン全般を学べる全国規模の拠点をとして、操縦技術だけでなく、ビジネス創出のワークショップを提供し、実践的な知識と新たな価値を生み出す場を目指すことは有益である。

ワークショップ結果（グループD）

■メンバー　（順不同）

会社名
浜松ドローンサービス
三菱電機株式会社
株式会社コア
三信建材工業株式会社
アンリツ株式会社



■議論の主な内容

天竜区に住みたいペルソナがいかに便利に住み良い暮らしを送ることができるのかという点で、都会と天竜区を繋ぐサービスについて議論が行われた。

■発表内容

天竜川地域の豊かな自然と地場産業を活かし、30代男性が住みながら都市と繋がる新しい生活モデルを提案した。ジビエや木材の出荷に加え、生活用品配送などのマルチパーパスな事業を展開し、都会と地域を双方向に結ぶ仕組みを構築し、都会の利便性を取り入れつつ、地域の魅力を都市へ届けることで、地域活性化と移住促進を目指す。

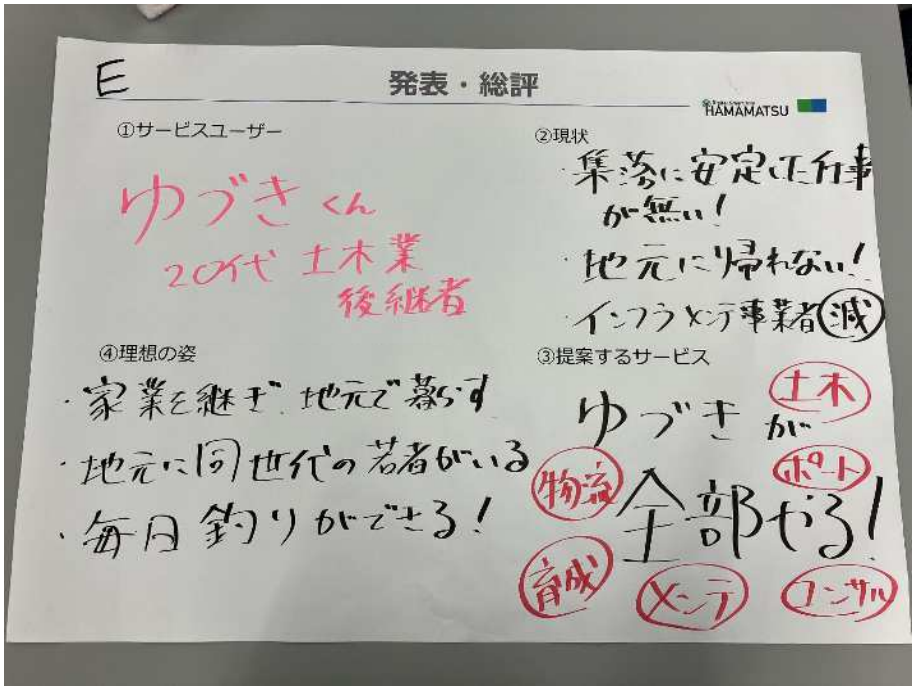
■発表に対する講評

都会に疲れた人々が天竜川地域で豊かな暮らしを実現できる仕組みとして、天竜木材をユニークかつ高付加価値な製品として販売する仕組みを構築し、人材マッチングを組み合わせることで、地域資源を活かしたビジネスと人材育成を両立させることができる。

10. ワークショップ結果（グループE）

■メンバー　（順不同）

会社名
中部精機株式会社
株式会社奥遠州X
ソフトバンク株式会社
浜松いわた信用金庫
農業水産課
農業水産課



■議論の主な内容

魅力的な天竜区でドローンを活用したアイデアを実現するには、土木インフラが重要でありその、キーパーソンがいることについて議論が行われた。

■発表内容

地元佐久間の土木業後継者“ゆづきくん”が、現在は浜松市内で修行中である。彼をキーパーソンとする提案をした。

土木業は中山間地域で欠かせない基盤産業でありながら、災害が増える時代においても若者が減少している現状にある。地元に戻り、土木、ポート整備、人材育成といった分野で多面的に貢献することで、地域を支える大きなリソースとなる可能性がある。

そんな“ゆづきくん”を応援する提案となった。

■発表に対する講評

過疎地で豊かに稼ぐ可能性を示すデータとして、北海道では過疎化が進むと平均年収が上がるという事例がある。これは、限られた人材が多面的な役割を担い、「すべてをやる」ことで価値を創出しており、若いエネルギーを持つ人々が中山間地域に入り、過疎地での新しい働き方と可能性を示すことによって、豊かに稼ぎながら地域を活性化させる未来が描ける。

11. 総評

浜松市フェロー　東博暢氏

課題解決の鍵として、通信の問題などに対しアップデートされた環境を整えることが求められる。
天竜川を重要な拠点とし、川沿いから地域を発展させる視点は、歴史的に見ても江戸時代からの地域の流れを汲むものであり、見方を柔軟に変え、新しい価値を創造することで、「とったもん勝ち」の精神で行えるとさらに勢いが増すと感じる。

スズキ株式会社　次世代モビリティサービス事業
藤谷旬生　部長

スズキはドローンスカイドライブや国産ドローンに出資し、スクール運営を通じて浜松に産業集積の基盤を築きたい。
投資を抑えつつ運用コストを上回る価値を生み出すマネタイズモデルを探求しており、過疎地の利点を活かして地域とドローン産業の双方に大きな可能性を感じた。

遠州鉄道株式会社　経営企画部
磯部隆一　次長

自然を満喫できる一方で、人が少ないという特性からドローンの活用にも適した環境である。こうした地域で様々な取り組みを試行し、社会実装を実現していくことが求められる。
今年度から遠州鉄道も地域共創推進室を設置しており、地域と連携した新たな可能性を模索してく。

浜松市　デジタル・スマートシティ推進課
米村仁志　課長

印象的だったのは、それぞれが個性的な提案をいただき、市としては、その種を育て、地域内外のネットワークを広げることを目指したい。
既に他地域で確立されたドローン航路を活用し、周りの方々にも広くPRしていただくことで、さらなる発展につなげられると期待している。